

22 いわゆる“波動測定”による光学異性体  
(D-form, L-form)の判別  
[第2報 糖の場合]

村上 幸雄 栄養化学研究所（東京・文京区）

**[目的]** いわゆる“波動測定”による光学異性体（D-体、L-体）の判別。

**[方法]** いわゆる“波動測定”は、まだ、ここ十数年、本邦で特定の研究者、利用者によって取り上げられているに過ぎないが、その隠された重要性は、未知の世界を拓く創造的作業としての補完・代替医学的研究として、注目しておかねばならぬもののひとつである。

前回の発表（第2回大会、1999横浜）においては、アミノ酸の光学異性体（D-体、L-体）を、波動測定によって、明確に判定できることを報告した。

今回は、同様の方法によって糖の光学異性体の区別が可能であるかどうかについての実験を行った。

**[成績]** アミノ酸についての測定値が、生化学的・代謝生理学的に意味のあるL-体の方が例外なくD-体よりも高値を示した、前回（1999横浜大会）の報告に引続いて、今回も糖の場合について、同様の実験を行い、相似の成績を得た。

D-Glucose と L-Glucose の例を下に示す。

波動測定器による計測表

	D-Glucose	L-Glucose
総合	+5	+3
免疫	+3	+1
肝臓	+2	+2
腎臓	+3	+2
腸	+4	+3
脾臓	+1	+1
代謝	+4	+2

**[結論]** 波動測定により、微妙な構造化学上の差異である光学異性を、区別・判定することが出来ることが示された。

波動測定は、当方の依頼により、名古屋製酪（株）の波動医学総合研究所の協力を戴いた。ここに明記し、謝意を表する次第である。